

館内で「プチタ涼み会」を開催！



理事長 荻部 一夫

カフェ

笑顔あふれる

日本一静か

報道番組を見て久しぶりに涙しました。話題は「日本一静かで笑顔あふれるカフェ」東京・国立に一年前、オープンしたカフェ。人通りが多い駅前にあつてにぎわっていても、店に入ってみると驚くほど静か。「いらっしやいませ」の声もない。それは、聴覚に障害があるスタッフたちが手話で接客しているから。手話や筆談、時にはジェスチャーも交えて『会話』する。その笑顔あふれる接客に、常連さんも増えている。訪れる人が元気になるカフェ。(番組ホームページより抜粋)

私が福祉の世界と出会った半世紀も前から、障害者が一般の社会の中で分け隔てなく生きていくノーマライゼーションという考え方がありました。しかし五十年が経った今でも障害者の社会参加、特に就労の実態はなかなか難しい状況にあると感じています。

確かに法律が整備されつつあり、障害者雇用が進んでいる側面もありますが、未だ企業の中には特定子会社を作って本業とは別の仕事内容を作るとか、健常者の補助的な仕事をやらせようとかいう内容もまだ散見できます。

しかし、このカフェのチャレンジは、その考えを超えるものでした。店長さんは、まったく音が聞こえない聴覚障害者で、その他の店員さんも少し聞こえる方もいらっしやいます。ほぼすべての方が聴覚障害者だけで運営しているのです。新人さんが入っ

てきたとき、ミルクの泡立てのこつを教えるのも聴覚障害者が聴覚障害者に手話を使って研修するのです。

もちろんお客さんの注文を受けるのも音声言語ではなく、指差しや手話、文字、表情などでコミュニケーションをします。「日本一静か」とは、声を出さないからでしょう。でもその代わりに手振り身振り表情は豊かなになるので、「笑顔あふれるカフェ」となっています。私の理由は、きつとそこで働いている方々が本当の意味で社会の役に立っているかと実感し、自信に満ち溢れた表情で働いている姿を見たからだと思います。

ノーマライゼーションが実現した一つの形を見た思いがしました。

私の頭の中には、これまで障害者だけでのカフェ経営は、難しさを感じ、想像を避けていたかもしれません。私も福祉サービスの側にいる職員としては、就労支援の役割は、現にある社会の仕組みを前提に個々の障害者の役割を見つけたら、そこで働けるように技能を身に着けたりしてきたように思います。そこには心のどこかで、思い込みで壁を作ってきたのかもしれない。

障害者への「合理的な配慮」や「意思決定支援」の重要性が叫ばれる中、障害者の傍らにいる私たちの考え方が非常に大切になります。本当の意味で、ご利用者のためになっているか、思い込みで囚われていないか、常に自身を振り返る必要があると改めて感じさせてくれました。

ふわっとなだより

こんにちは！暑い日が続きますが、暦の上ではもう秋。季節の移り変わりは早いものですね。そんな中、ふわっとなではどんどん新メニューを企画しています。最近のニューフェイスをいくつかご紹介いたします♪

まずは「パインココナッツパウンドケーキ」♪これは清瀬にある就労継続支援B型事業所のマザアスさんから、加工後に余剰となったパイナップル原液を提供してもらったものを使用した、甘酸っぱいトロピカルな味わいのパウンドケーキです。アイシングも爽やかなパイナップルの風味が楽しめます♪

次に、早くも話題沸騰の「マリトッツォ」です！イタリア・ローマのパン風お菓子で、ブリオッシュ生地に生クリームをたっぷり挟んだ、コロんとした丸い形が世間で人気を呼び、有名洋菓子店やパン屋さん、コンビニでも発売されていますが、ふわっとなでもいち早く製品化しました。緑茶をパン生地に練りこんだ「緑茶粒あん」、レモンピールが入って爽やかな「プレーン」、マスカルポーネ風クリームがたっぷりで大人の味の「コーヒー」の3種類があります。他にも、自家製ミントを使用した「チョコミントパウンドケーキ」など、企画から利用者さんと一緒に考えながら製品化したお菓子が目白押しです！

【食欲の秋】を、ぜひふわっとなのお菓子で堪能してくださいませ♪



できたてのパウンドケーキ♪



テイクアウトできます♪



3種類のマリトッツォ♪

魔法の言葉

私には80歳の祖母がいます。出勤日には欠かさず「頑張ってね。いってらっしゃい」と私が見えなくなるまで見送ってくれます。祖母の言葉が仕事の原動力の1つです。

こぶしに着くと利用者さんから「よろしくお願いします。」「待ってたよ！」と挨拶があり「今日も頑張ろう！」とさらに、やる気が出ます。

夜勤明けで空腹と眠気でフラフラになっている時に「ゆっくり休んでね」と利用者さんが仰って下さったときには、もう嬉しくて空腹も眠気もどこかに飛んでいきます。言葉の力のすごさを実感すると共に、利用者さんは言葉の魔法使いだなと思います。

利用者さんの魔法の言葉を聞くと日々利用者さんにどんな声かけをしているだろう…。と考えさせられます。私も利用者さんのように「魔法の言葉」が使えるようになりたいです！

生活支援員 花岡 穂香

攻めの姿勢

先日、昨年より延期されていた「東京オリンピック 2020」が終わりました。私は普段スポーツをあまり見る事はなく、オリンピックに関しても競技スケジュール等確認していませんでした。

そんなある日、テレビをつけると卓球の混合ダブルス決勝が行われるところでした。相手は卓球王国の中国。夕食を食べている間だけと軽い気持ちで見始めましたが、劣勢から徐々に追いついていく緊張感のある展開に、気が付くと食事の手が止まっていました。結果は見事金メダル。その後大きくニュースで取り上げられることとなりました。

その日からというもの、私のオリンピックへの関心が高まり、夕食の時にはテレビをつけて何らかの競技を見るようになっていました。その日はメダルへの期待が寄せられる中、陸上男子 4×400mリレー決勝が中継されていました。緊張感の高まる中、第一走者が快調な走りを見せ、2走へバトンを渡す場面でバトンミスが起きました。結果は棄権。個人レベルではメダルに届かない中、リレーという競技でメダル争いに絡んでいけるのは、バトンの受け渡し時の技術を高め、タイムロスギリギリまで無くしていると聞いたことがあります。

私は中学、高校と陸上部に入部しており、リレーの緊張感と難しさに関して少しわかるつもりです。きっと想像もつかないような努力があったのだと思います。直後のインタビューで4人の選手が涙ながらに語った言葉の中に「攻めた結果」という言葉が多く聞かれ、とても印象に残りました。メダルを取るためにはそうする必要があり、その上での結果だったのでしょ。

支援でもチャレンジし、攻めた結果で失敗してしまうことがあります。結果が中々でないこともたくさん思い当たります。しかし、その過程で学んだことは必ず他の場面で活かれます。それは直接的な支援の技術や知識に限らず、チームワークであったり、支援に対しての考え方であったり、道徳的な内容のことかもしれません。いずれにせよ、攻めた結果であれば、それが完全に無駄になる事はないと私は思っています。自分自身に限らず、周りで挑戦している人がいたら支えられるようにし、オリンピックを通して感じたことを、今後の自分の仕事に活かしていきたいと思います。

運営環境整備部部长 剣持 勇氣



新しい事を学ぶ

今年度より新たに施設環境課の課長になり、色々と分からない事だらけの中、日々の業務を行っていません。施設環境課になり、今までは関わらなかった業務の内容が多くあり、学びと発見の連続です。

今までの私でしたら、慣れ親しんだ業務の方が勝手が分かるし、新しい場所での取り組みは嫌だなあ〜と感じていたと思います。

そんな考えを少し変えてくれたのが、とある占いの本を見た時に「今年は新しい環境で物事を取り組む年です。今までと違いミスや出来ない事が多くあるでしょう。しかしその分、新しい事を学び今後活かせる年になるでしょう。」とありました。この本を見て、新しい事を学ぶ事は大変ではありますが、自分が知らなかった事や、出来ていない部分を知る為の良い機会だと思うようになりました。今現在は自分が出来なかった部分を反省し、振り返りを行いながら頑張っています！

生活支援員 丸山 耕太郎

★「人生に喜びを！印象に残る行事にしよう♪」～行事紹介のコーナー～★

行事企画課では、利用者さんにとっても、支援者にとっても、印象に残る行事になるよう企画をたてています ✨ 「あの時の行事は楽しかったよね〜」「またやりたいな〜」と言って貰えるようにアイデアを振り絞っています！



①最近の行事で一番印象に残っているものは？

夕涼み会です 🍉

②印象に残ったその場面は、どのような場面ですか？

ヨーヨーや射的などの屋台をまわったり、そうめんを食べたり、

こわ〜い話を聞いたり内容の詰まった夕涼み会でした！

その中でも印象に残っている場面は「スイカ割り 🍉」です！バットがほんの少し柔らかく、スイカが割れるか心配でした。でも皆さんの気合で見事に割ることが出来ました ✨

③目新しい斬新な行事企画をコッソリ教えてください。

わっしょいわっしょいこぶし祭りが近づいてきました 🍷🍷 「食」をテーマに考えています 🍷 たくさんの国の食べ物を屋台で出すとか出さないとか 😊

④最後に…こぶしだよりを読んでいる方へメッセージをお願いします。

暑い日が続いております… ☀️ 熱中症などには十分気を付けてお過ごしください 🍷

(行事企画課 小林 成奈)

★「日常をおもしろ・楽しく出来るのは私たち次第♪」～余暇活動紹介のコーナー～★

余暇課では、利用者さんにたくさんの体験をして貰えるような企画をたてています。また、企画だけでは無く利用者さん一人一人に焦点をあてて「その人らしい余暇時間」が過ごせるように、時間に縛られない余暇が実現できるよう日々工夫を凝らしています！



①最近の余暇で一番印象に残っているものは？

夏の風物詩「風鈴」を手作りで作成したことです。

②印象に残ったその場面は、どのような場面ですか？

コロナということもあり、外出が非常に厳しい状況であり

ますが、室内でも夏を感じられるよう風鈴を皆で作りました。

印象に残った場面は、ある利用者さんが鈴を力いっぱい振って音を鳴らしていたので、楽器だと勘違いしていたことです。

③これから考えている新たな余暇チャレンジはありますか

ペットボトルなどの材料で簡単に作れる楽器を作り、こぶしオーケストラをしてみたいと思います。

④最後に…こぶしだよりを読んでいる方へメッセージをお願いします

余暇課は、利用者さんは勿論、支援者も心の底から楽しめるようなイベントを企画しています。

コロナが終息したら、ぜひボランティアにお越しください。

(ボランティア余暇課 小畑 満月)